

報 告

患者図書室ボランティアのための院内研修についてのアンケート報告

The Questionary Survey about the Training for Patient Library Volunteers

有 田 由美子 田 村 みゆき

Yumiko ARITA, Miyuki TAMURA

要 旨

患者図書室ボランティアのための院内研修について他院での研修状況のアンケート調査を行なったので報告する。調査対象は都道府県がん診療連携拠点病院（54施設）、日本病院ボランティア協会ホームページに掲載されている患者図書ボランティアを行なっていると思われる病院（94施設）の合計148施設である。回答83施設、回収率56%である。研修を実施している施設は70%あった。研修内容は患者・家族への接し方や病院概要、院内連携、傾聴について行われていた。図書については、新人研修として活動の基本（貸出の基準やルールなど）、資料整理・受入・分類、レファレンスワーク、図書修理の方法と実際であった。ボランティアの要望が多い研修は多岐にわたっているものの、患者・家族との接し方が1番多かった。図書について要望の多い研修は、医療情報の資料提供の仕方、資料の探し方、図書分類についてであった。講師は職員が務めるところが多いが、外部講師やボランティア自身が務めるところもあった。研修についての意見をみると、院内研修の限界や外部講師選定の苦勞、またボランティアの自主性を活かした研修や支援をしており、ボランティアに対する期待の高さがうかがえた。

はじめに

当院ではボランティアの協力を得て、患者と家族に病気についての正しい理解を得ることができるように、わかりやすい医学・医療関連図書を提供する「からだのとしょかん」を設置している。ボランティアは開設当初から「新潟ホスピス・ボランティアの会」が団体に登録していたが、諸々の都合により2012年4月より個人登録に変更された。それまでは会として研修会を院外で行なっていたが、今後は院内で研修を行うことになった。「からだのとしょかん」の担当部署である図書室では、他院での研修状況、研修内容、開催数などの情報を把握して、職員の関わりやボランティアの自主性等について参考にするため国内病院にアンケートを実施したので結果を報告する。

I. 調査概要

調査概要は次のとおりである。

- 1) 調査名称：「患者図書サービスボランティアの院内研修アンケート」

- 2) 調査対象：都道府県がん診療連携拠点病院（54施設）、日本病院ボランティア協会ホームページに掲載されている患者図書ボランティアを行なっていると思われる病院（94施設）合計148施設
- 3) 調査期間：2013年4月
- 4) 回 答：83施設
- 5) 回 収 率：56%

II. 設問内容

設問内容は次のとおりである。

- 1) ボランティアの協力を得て、パンフレットや書籍、インターネット端末などを常備した、患者・家族への緩和ケア（がん情報）に関する情報提供の有無（都道府県がん診療連携拠点病院へのみ）
- 2) ボランティア研修の有無
- 3) 研修の主催者について
- 4) 研修の内容について
- 5) ボランティアに要望の多い研修内容
- 6) 講師について
- 7) 催回数について
- 8) 研修についてのご意見

Ⅲ. 集計結果

1. 都道府県がん診療連携拠点病院（以下、拠点病院）での患者図書サービスの有無

拠点病院54施設に対し、ボランティアの協力を得て、パンフレットや書籍、インターネット端末などを常備した、患者・家族への緩和ケア（がん情報）に関する情報提供の有無を尋ねたところ、32施設から回答があった。この内ボランティアでの図書サービス有りは4施設のみ、研修ありは3施設であった。

2. ボランティア研修の有無 (n=59)

有が多いのは、研修をしている施設からの回答が多いことも関係している。(図1)

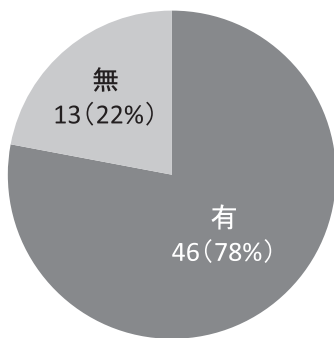


図1 研修の有無

3. 研修の主催者について

病院の業務としての開催が1番多かった。ボランティアが自主的に開催しているところは、16施設29%と次に多かった。(図2)

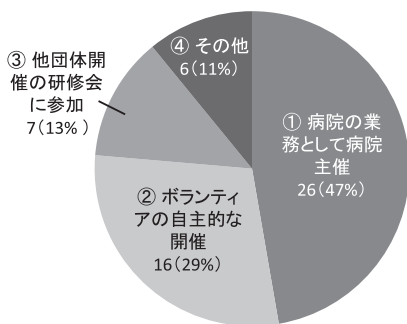


図2 研修の主催

4. 研修の内容について

研修の内容については、下図の回答項目を用意した。多かったのは、病院で活動するボランティア全体へのものが中心となっていた。患者図書ボランティアとして図書の探し方やパソコンでの検索の仕方については多くなかった。図3は「⑦その他」を除いた割合である。(図3)

「⑦その他」の内容は多岐にわたっていた。(n=73) 図書についての内容は、新人研修として活動の基本

(貸出やルールなど)、資料整理・受入・分類、レファレンスワーク、図書修理の方法と実際であった。(図4)

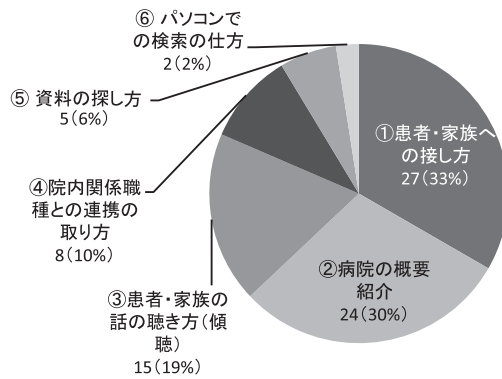


図3 研修内容

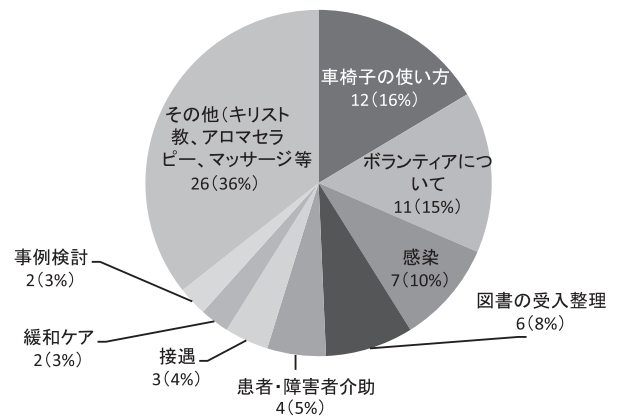


図4 研修「⑦その他」の内容

5. ボランティアに要望の多い研修内容(n=31)

研修内容のうち、ボランティアから特に要望の多いものを尋ねたところ、患者・家族への接し方が1番多かった。図書についての内容は、医療情報の資料提供の仕方、資料の探し方、図書分類についてであった。(図5)

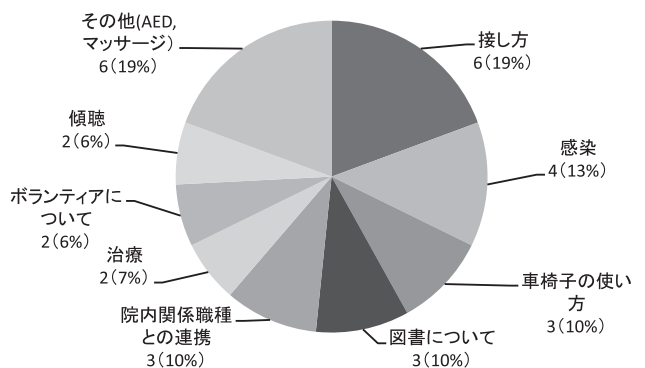


図5 要望の多い研修内容

6. 講師について

講師は看護師が1番多かった。病院内でのボランティアへの関わりは看護師が1番多いことが推測される。(図6)

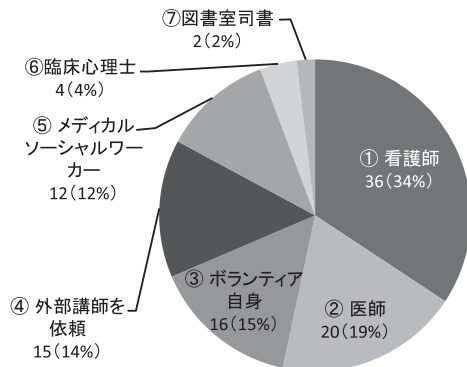


図6 講師

7. 開催回数について

開催回数が決まっていると回答があったのは30施設であった。回数は、年平均3回である。開催日は、ほとんどが平日の日中であるが、平日の夜が2施設、休日の日中が1施設おこなっていた。開催にかかる時間は1~2時間が最も多く22施設、30分~1時間が16施設、2~3時間が3施設、1日が3施設であった。(表1)

8. 研修についての意見から抜粋 (自由記載)

- ・ 院内研修だけでは限界があり例えば日本病院ボランティア協会の研修などへ行っていただきたいのですが病院として実施するしくみがなく他の病院ではどのようにされているかお伺いしたいところです。
- ・ ボランティアが主体的に企画立案するが、外部講師を依頼する時は講師選択等で苦勞することがある。他病院のボランティア研修など情報交換の必要も考えたい。※都合で受講できない人への報告会も必要と考える
- ・ 当院のボランティアは春夏開催されるボランティア養成講座(全6日)の受講修了者であるが、活動開始後は年5日のアドバンス講座受講を薦めている。講座内容は毎年、病院ボランティアそれに併設されているホスピス教育研究所で話し合っている。学ばないボランティアはホスピスボランティアの資格がないと考えている。
- ・ 病院ボランティア活動員として質の高い患者サービスの提供に役立つ研修をしたい
- ・ 近くの地域単位でボランティアさんが気軽に参加できる研修があれば良い→全国レベルになるとなかなか参加できない。

表1 開催回数等について

開催回数	決まっている	30施設	開催日	平日の日中	36施設
	決まっていない	13		平日の夜	2
年間開催数	回	平均3回	休日の日中	1	
			休日の夜	0	
			その他	5	
			開催時間	30分~1時間	16
				1時間~2時間	22
				2時間~3時間	3
				3時間~4時間	0
				1日	3
				その他	0

ま と め

都道府県がん診療連携拠点病院ではボランティアの協力で患者医療図書サービスを行なっているところは4施設と少なかったが、うち3施設はボランティア研修を実施していた。一方、日本病院ボランティア協会会員病院でホームページに掲載されている患者図書ボランティアを行なっていると思われる病院では、研修を行なっている施設は多かった。日本病院ボランティア協会のガイドブックによると、ボランティアが活動を継続していくためには研修が必要であると記載がある。その理念によるところが大きいと思われる。

研修内容は患者・家族への接し方や病院概要、院内連携、傾聴について行われていた。図書については、新人研修として活動の基本（貸出基準やルールなど）、資料整理・受入・分類、レファレンスワーク、図書修理の方法と実際であった。

ボランティアの要望が多い研修は多岐にわたっているものの、患者・家族の接し方が1番多かった。

図書について要望の多い研修は、医療情報の資料提供の仕方、資料の探し方、図書分類についてであった。

講師は職員が務めるところが多いが、外部講師やボランティア自身が務めるところもあった。

研修についての意見をみると、院内研修の限界や外部講師選定の苦勞、またボランティアの自主性を活かした研修や支援をしており、ボランティアに対する期待の高さがうかがえた。

おわりに

日本病院ボランティア協会のガイドブックによると、病院のボランティアは来院する人々に安らぎをあたえ、相手の立場に立ちやさしく温かさを伝える存在とある。患者サービスの一翼を担う存在として、また病院スタッフの一員として、ボランティアも病院職員も研修の必要性を認識し、互いに成長していくことを願うものである。

最後になりましたが、お忙しい中アンケートにご協力くださいました関係諸氏にこの場をお借りして、厚くお礼を申し上げます。